
うみのくに保育園とごし

令和5（2023）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)よりそう保育 2)つながる保育 3)家庭的できめ細やかなサービス 4)保護者の方と一緒に子どもの健やかな成長をサポート 5)子育てについて保護者の方と一緒に考え、悩み一人一人の子育ての支援
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 ・ポジティブな考え方ができる人 ・相手の立場を考えられる人 ・任されたことをやりとげる人 ・柔軟性がある人 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・笑顔で子ども一人ひとりと向き合い、感情的に怒らない、叱らない。 ・子どもにとって、うみのくにが第二の家庭であること ・子ども支援の仕事であるとともに、保護者の価値観に寄り添って支援をする仕事でもあること。 【子どもの無限の可能性】 子どもたちは、無限の可能性を秘めて生まれてきます。信頼できる保育者が適切に働きかけながら一緒に過ごし、子どもの中に秘めている可能性を一つでも多く刺激できるような遊びの提供。 【驚きと発見の体験】 家庭では体験できない新しい発見や面白いという気持ちを味わえる場づくりをします。毎日の登園が楽しみになる保育環境の提供。 【安心とくつろぎの場】 0歳児が母親と離れて過ごす場となるため、胎児が羊水の中でくつろぐように、安心して過ごせる空間作り。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	法人、園との関係はトップダウン、ボトムアップ方式で政策決定を図るなど、風通しの良い組織風土が形成されています
	内容	法人では組織の活性化と人材育成のため、職員の希望を踏まえ人事異動を行っています。法人と現場との円滑な連携のため園長会を組織し、月1回、本部職員も参加する会議を開催しています。法人の政策決定では、園長会を通じて現場の意見を反映させるなど、トップダウン、ボトムアップ方式の運営に努めています。さらに法人の看護師会議、栄養士会議を通じて、階層・職種に応じた課題を共有し、解決に取り組むほか、リーダー的な職員が系列他園の保育に参加し、交流を通じて互いに刺激し合うなど、組織全体で保育・運営の質の向上に取り組んでいます。
2	タイトル	保護者の気持ちに寄り添い信頼関係を構築し、子どもの育ちを園と保護者が連携して見守っています
	内容	運営方針の一つに「よりそう保育」を掲げています。園は0～2歳児を預かる小規模園であるため、特に家庭的な雰囲気大切に、子ども一人ひとりにとって安心できる丁寧な保育を実施しています。1、2歳児には異年齢グループによるユニット保育を実施しており、職員は担当制としています。このことにより、ユニット担当の保育士が日々の子どもの様子を直接保護者に伝え、保護者の思いも聞くことができます。そして、園と保護者とで共通の認識をもって子どもの育ちについて語り合い、支援できるように取り組んでいます。
3	タイトル	食育活動として2歳児が地域の商店街へ買い物に出かけ、その達成感から意欲や主体性が育まれています
	内容	年間の食育計画を作成し、年齢や発達に応じた取り組みをしています。「食育の日」には、2歳児が近隣の青果店で買い物体験をしています。これは2歳児全員ではなく、特別に選ばれた2名が、施設長が作成した「ミッションカード」を手に出かけます。自分が選ばれたという誇らしげな気持ちで、ミッションカードに書かれた食材の買い物を成功させることに使命感を持って取り組んでいます。他の子どもたちも、いつか自分が選ばれることを期待して楽しみにしています。このような活動は、子どもの意欲や主体性を育むことにもつながっています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	新入職員を中心にマニュアルに示す手順の学びの機会の確保、OJTなどの実践を期待します
	内容	マニュアルを整備し読み合わせ、実践により緊急時に備えています。保健では感染症、外傷、AED使用方法などさまざまな緊急時の対応マニュアルを整備しています。保育・給食では非常災害、園内事故、食中毒など保育場面のさまざまなリスクに対応した手順を示しています。保育の質向上の活動を通じて、マニュアルの見直しを行うほか、理解を深めるため手順をフローにするなど工夫をしています。今年度、新入職員5名を迎え入れていることから、当園では手順の周知、理解促進を課題としています。マニュアルの浸透など、一層の取り組みを期待します。
2	タイトル	ヒヤリハットは事故予防に資する貴重な情報となることから、所定の様式の作成及び積極的な収集を期待します
	内容	事故防止対策としては、園内・園外の事故対応マニュアルのほか、プレスチェックマニュアル、事故防止チェックリストを作成し、読み合わせ、実践を通じて予防対策にも取り組んでいます。さらに事故が発生した際は、事故報告書を作成しています。概要・発生後の対応・原因・反省など、要因分析を通じて再発防止に取り組んでいます。一方、ヒヤリハットについては所定の様式がありません。ヒヤリハットは事故に直結するヒヤリとした事例を収集・分析することで、事故予防に資する貴重な情報となります。様式作成について検討されることを期待します。
3	タイトル	適切なPDCAサイクルの実施のため、事業計画の「3本の柱」の振り返り結果を事業報告に反映することを期待します
	内容	法人が作成した中長期計画を踏まえ各園が毎年度、事業計画を作成しています。中長期計画には「専門スタッフの専門性のスキルアップ」など推進を目指す3つの改革が示されています。事業計画は、当該年度のテーマを設定し、「子ども一人ひとりに細やかな配慮を」など、3本の柱が示されています。さらに年度終了後に振り返りを行い、事業報告を作成しています。事業計画の3本の柱についても振り返りを行っていますが、事業報告に反映されていません。適切なPDCAサイクルの実施のためにも、振り返りの結果を事業報告に反映することを期待します。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル①	残業ゼロに向けて、職員の意識も高く、それを支えるシステムが機能しています	
内容①	安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいます。健康面では、健康診断、ストレスマネジメント、面接を通じて個々人の心身の健康管理を支援しています。また、雇用形態は多様で、個々人の事情によって働き方を選択することができるほか、有給休暇は希望通りに取得できます。さらに残業ゼロをほぼ達成しています。主任は各自の希望を踏まえて、綿密なシフトを編成しています。特筆すべきは、時間内に事務作業の時間を設け、その時間は別の職員が保育に入るなど、効率的な業務のため職員の意識、それを支えるシステムが機能しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-1-1	事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている
タイトル②	トライアル就労を通じて、組織として必要な多様な人材確保に取り組んでいます	
内容②	ホームページに採用サイトを設け、募集要項、応募フォームなど、求職者に必要な情報提供、求職活動への便宜を図っています。さらに、都の「雇用創出・安定化支援事業」に応募し、人材確保に取り組んでいます。この事業は派遣社員として2カ月内のトライアル就労（派遣費用なし）を通じて、雇用のベストマッチを目指すものです。法人ではこの制度を活用し、派遣社員から正社員を目指す方の求職活動を支援しています。ライフスタイルに応じた多様な就労形態を示し、法人、園として必要な多様な人材の確保に努めています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル③	ユニット保育を通じて、子ども一人ひとりの育ちを尊重した保育を実施しています	
内容③	1、2歳児は異年齢のユニットで活動しています。月齢の近い異年齢の子どもと過ごすことで、落ち着いて遊びに集中しています。さらに、身近な年上の子どもを手本として、自分もやってみたいという意欲も育ち、お互いに思いやりの気持ちや行動をとることで、自己肯定感の芽生えにもつながっています。各ユニットの担当職員は一人ひとりの心身の育ちに配慮した個別の指導計画を作成し、保護者とも子どもの育ちを共有しています。利用者調査結果においても「一人ひとりに寄り添ってくれる」「個性を大切にしてくれる」などの感想が寄せられています。	

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリー1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		
	評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
	評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
	評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
	カテゴリー1の講評		
	保護者に保育方針と実践の関係を分かりやすく伝えています 「よりそう保育」「つながる保育」を運営方針として、この実現に向けて事業計画、保育計画を作成し、運営、保育に取り組んでいます。法人研修、職員会議、定期的個人面談では方針、目標に沿った実践に対して振り返りを行うほか、掲示を通じて日常的に職員の意識づけを行っています。保護者に対しては、入園時の個別面接で方針、目標を伝えるほか、親子で参加できる「はじめましての会」「お楽しみ会」を通じて、理念と実践の関係を分かりやすく伝えています。ライブカメラで日常の保育の様子を視聴してもらい、信頼関係の構築に努めています。 事業計画には保育のテーマ、「3本の柱」を示し、進むべき方向性を明らかにしています 職務分掌が明確になっており、施設長をはじめ階層・職種別の役割、責任が共有されています。法人全体で人事評価システムを導入し目標管理制度を運用しています。職員は自己の目標を設定し、この達成に向けて実践に取り組んでいます。施設長は個々の目標を共有し、面接、日頃の指導を通じて職員を支援しています。年度当初、事業計画に当該年度の保育のテーマ、重点事項である「3本の柱」を示し、園として進むべき方向性を職員と共有しています。施設長は必要な時に適切に判断できる管理者としてリーダーシップを発揮し組織運営に取り組んでいます。 決定内容、経緯等は、保育業務支援アプリなどを使って保護者と共有しています 系列園の園長、本部職員を構成員とした園長会議を毎月1回開催し、必要な情報や課題の共有、解決策の検討を行っています。園内では、月1回、職員会議、月案会議、リーダー会議を行うなど、法人・各園の一体的な運営に取り組んでいます。さらに看護師会議、給食会議を設け、健康管理・食事などの専門的なテーマの検討を行っています。決定内容・経緯は会議、ミーティング、コミュニケーションアプリで共有しています。保護者に対しては、保護者会、運営委員会などの会議、掲示、園だより、保育業務支援アプリの連絡事項を通じて伝えています。		

2	カテゴリー2		
	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
	サブカテゴリー1(2-1)		
	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
			6／6
	評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		
	評点(〇〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当	
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当	
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当	
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当	
サブカテゴリー2(2-2)			
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
		5／5	
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当	
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当	
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当	
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当	
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当	
カテゴリー2の講評			
タウンミーティングの参加を通じて、地域の福祉の動向の把握に努めています 定期に受審する第三者評価の利用者調査結果を通じて保育ニーズの動向を分析するほか、保護者会や運営委員会、日常的な会話、連絡帳を通じて保護者の意向を把握し、保育や運営の改善の基礎資料として活用しています。職員の意向は職員会議、日常のコミュニケーションのほか、職員面接などで把握し、法人全体で共有すべき課題があれば園長会議で検討しています。地域の福祉の現状は、タウンミーティングに参加し、保育関係者、教育関係者、警察関係者などと交流するほか、公私立保育園連携交流会などを通じて把握するよう努めています。 法人は認証保育所事業者団体に参加し、福祉事業全体の動向把握に努めています 福祉事業全体の動向は、加入している認証保育所事業者団体、系列園が参加する私立園長会からの情報提供を通じて国、都、区などの保育政策・施策を把握し、運営の参考資料として活用しています。毎月開催する園長会議では、法人本部から予算の執行状況の報告があります。施設長は、毎月、園の運営状況の報告を行い、課題があれば全体で共有し、解決策について検討を行っています。保護者のニーズ、政策の動向を踏まえて、取り組むべき課題を抽出しています。園、法人が一体となって課題解決策を検討し、実践しています。 事業計画の「3本の柱」について振り返りの結果を事業報告に反映することが望まれます 中長期計画は法人が作成し、これを踏まえて各園が毎年度、事業計画を作成し、年間を通じて実行しています。中長期計画には「専門スタッフの専門性のスキルアップ」など、3つの改革の推進が示されています。事業計画は、当該年度のテーマを設定したうえで、「子ども一人ひとりに細やかな配慮を」など、「3本の柱」が示されています。年度終了後に前年度の振り返りを行い、事業報告を作成しています。事業計画の「3本の柱」についても振り返りを行っていますが、事業報告で振り返りの結果を文書化することが望まれます。			

	カテゴリー3の講評
	毎月、テーマを設定して、「保育の質の向上」の活動に取り組んでいます 児童福祉法、保育所保育指針に沿って、倫理規定、就業規則の服務規程、園規則、各種マニュアルを整備し、職員で読み合わせを行うほか、保育実践で判断に悩む際に参照しています。年間を通じて毎月、「保育の質の向上」に向けて、テーマを設定して保育実践、評価反省、振り返りを行う活動に取り組んでいます。今年度4月のテーマは「理念・人権・虐待」としています。また、人事評価システムを使った目標管理で職員は、自己評価を通じて倫理の側面から振り返りを行い、子どもの心を傷つけない関わり方についての理解を深めています。 苦情対応マニュアルをフローにして、解決に向けた活動の円滑化に取り組んでいます 苦情解決制度は入園説明会で伝え、玄関での掲示を通じて啓発に努めています。苦情対応マニュアル・フローを作成し、発生時に迅速に対応できるよう備えています。意見・苦情報告書を整備し、発生から解決に至るまでの経過を記録しています。子どもの心を傷つけない言葉かけ、対応のためチェックリストを使って振り返りを行っています。虐待が疑われる場合、子ども家庭支援センターなど、関係機関と連携して対応する仕組みが整っています。様子が気になる子どもについては、保護者、子どもの変化を見逃さないよう職員間で連携して対応しています。 「職場体験のしおり」を作成し、体験者、子どもたちとの実りある交流を目指しています 第三者評価を定期に受審するほか、中学生の職場体験を受け入れるなど、開かれた施設運営を目指しています。「職場体験のしおり」「保育実習受入マニュアル」を整備し、体験者、子どもたちにとって実りある体験となるよう支援しています。さらに地域の福祉ニーズに応じて、一時保育、延長保育を実施しています。商店街の組合に加入し、ハロウィンなど子どもたちがイベントに参加しています。「食育の日」には、商店の協力のもと買い出しや、食材の受け取りを子どもたちが行うなど、商店街の大人と交流しています。

4	カテゴリー4		
	リスクマネジメント		
	サブカテゴリー1(4-1)		
	リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
			5／5
	評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
	評点(〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
	●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当	
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当	
	サブカテゴリー2(4-2)		
	事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
			4／4
	評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		
	評点(〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
	●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
	●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
	カテゴリー4の講評		
	共有しているヒヤリハットのデータが、統計的に活用できるよう様式の整備を期待します リスク対策ではマニュアルを整備し、読み合わせ、訓練を通じて緊急時に備えています。保健では感染症、外傷、AED使用方法などの緊急時対応マニュアルを整備しています。保育・給食では非常災害、園内事故、食中毒など、保育場面のさまざまなリスクに対応した手順を共有しています。今年度、保育の質向上の活動を通じて、マニュアルの見直しを行っています。事故発生時は所定の様式に内容を記載し、情報を共有して再発防止に取り組んでいます。ヒヤリハットは統計的なデータとしても活用できることから、様式を整備されることを期待します。 事業継続計画では、「確認」から「全面回復」に至る4段階で活動を明確にしています 年間の避難訓練計画に沿って毎月、地震、火災、不審者など、さまざまな緊急事態に応じた訓練を行うほか、引き渡し訓練なども実施し、非常時の保護者と園の連携方法を確認し合っています。また、緊急時の避難場所は玄関先に掲示し、日頃から周知に努めています。法人では各園共通の事業継続計画(BCP)を作成しています。計画では第一段階「確認」、第二段階「試行的事業再開」、第三段階「事業回復」、第四段階「全面回復」としています。確認の段階ではチェックリストを使って、施設状況等を把握して具体的な活動を明確にしています。 ライブカメラの利用はアクセス制限を行って、子どもたちの情報の管理を徹底しています 情報公開及び個人情報に関する遵守事項、通信情報管理規定を整備し、職員の間で共有されています。また、入職時、守秘義務の誓約書を提出するなど、個人情報の保護を徹底しています。児童票など個人情報に関わる資料などは鍵付き書庫に保管し、必要時に職員は閲覧できます。保育園管理システムについては、ID、パスワードによってアクセス制限を設け、個人情報の保護を徹底しています。また、保護者が利用するライブカメラもアクセス制限を行っています。保護者からの情報開示請求にも対応しています。		

5			カテゴリー5	
職員と組織の能力向上				
サブカテゴリー1(5-1)				
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	12／12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる ○非該当				
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している ○非該当				
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している ○非該当 ●あり ○なし 2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している ○非該当 ●あり ○なし 4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている ○非該当				
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている ○非該当 ●あり ○なし 2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる ○非該当 ●あり ○なし 3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる ○非該当 ●あり ○なし 4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている ○非該当				
サブカテゴリー2(5-2)				
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	3／3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している ○非該当 ●あり ○なし 2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている ○非該当 ●あり ○なし 3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる ○非該当				

	カテゴリー5の講評
	都の「雇用創出・安定化支援事業」に応募し、トライアル就労に取り組んでいます ホームページに採用サイトを設け、募集要項、応募フォームなど、求職者に必要な情報提供、活動の便宜を図っています。また、都の「雇用創出・安定化支援事業」に応募し、トライアル就労から正社員を目指す方の求職活動の支援、採用に取り組んでいます。ライフスタイルに応じた多様な就労形態を用意するなど、働きやすい環境づくりに取り組んでいます。組織の活性化を図るとともに、本人の希望に応えるため必要な人事異動を行っています。また、各園の状況を踏まえて、適材適所となるよう園長会の検討結果に応じて年度途中の人事異動も行われます。 目指す保育士の姿を目標とする目標管理制度を運用し、職員のやる気につなげています 法人ではグレード(階層)に応じたキャリアパスを運用し、処遇と直結した人事システムとして運用しています。目指す保育士の姿を目標とし、人事評価システムを活用し、自己・他者評価を通じて目標管理が行われています。目標設定、評価は、法人担当者、施設長との面接によって行われ、キャリアプランを共有しています。研修計画を作成し、職員はキャリアアップ研修などに参加し、スキルアップを図っています。保育の質向上の活動では話し合いと実践を通じて個人、全体の資質向上を図るほか、系列他園での実践を経験する研修も行っています。 健康管理、有給休暇の取得、時間外労働なしなど、働きやすい職場づくりに努めています 法人ではグレードに沿った俸給表を設定し、人事考課に応じて昇格・昇給が行われるなど、公平、公正な人事システムを運用しています。健康診断のほか、ストレスマネジメントも実践し、職員の心身の健康管理を支援しています。有給休暇も取りやすくし、原則、時間外労働はありません。施設長は職員の就業状況を把握し、必要な職員には面接を通じて必要な助言を行っています。保育の質向上の活動では、今年度、園の特長である縦割り保育に加え、同じ年齢の子どもをグループにした横割り保育を実践するなど、サービスの質の向上に取り組んでいます。

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
前年度の振り返りの結果、子どもの気持ちに寄り添うことを課題としました。そこで当該年度は「子ども、大人それぞれの人権の尊重」を目標としました。ライブカメラを導入していますが、視聴した保護者から「保育中のマスク着用」「授乳と寝かしつけ」の援助内容への意見が寄せられました。この二点の改善と保護者への理解促進を通じて、子どもと保護者の人権尊重、保育の質の向上につなげました。具体的には、バウンサー(ゆりかごのような椅子)の使い方の学び直し、寝かしつけの実演研修を行いました。ライブカメラでの撮影、検証を通じて、保育内容の充実と誤解を招かない方法を検討しました。さらにマスク未着用が、職員の食事中や事務作業中など急な対応時に生じています。保育と他の作業との切り替え時のマスク着用の習慣化など、適切な寝かしつけも含めて会議、文書での確認、職員相互の声かけなどで徹底できました。一方、日々の保育に追われ、課題に対する意識が薄れる事例も見られました。職員一人ひとりの心の余裕が実践に影響することから、今年度は、一人で保育するのではなく、「園児は全職員で見守り、保育をしていく」ことを目標とし、意識改革と保育実践に取り組んでいます。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
取り組みは、保護者からの指摘事項を踏まえ、保育内容の改善、感染症予防の徹底、この結果の可視化を通じて、「子どもと保護者の人権擁護」の実現に向けた内容です。子どもの4つの権利「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」を前提条件に示すことで、保育の方向性がより明らかになっています。指摘では、ライブカメラの視聴により、バウンサーの使い方(強くゆする等)、保育と他の作業の切り替え時のマスク未着用(着用忘れ)の二点です。実践研修を通じてバウンサーの使い方を改めて確認し、寝かしつけなど援助方法の見直しを進めました。一方、マスク着用は、保育と他の作業切り替え時の行動の流れを踏まえ、着用が習慣化できるよう取り組みました。さらにライブカメラでの見え方を検討し、保護者の安心につながるよう努めました。振り返りの結果、目標は達成できたが、一方で意識が薄れる事例もあったと評価しています。これらを課題に今年度は、職員の心の余裕が生まれるよう、全職員で一体となって保育にあたることを目標に設定し、実践しています。当園では、PDCAサイクルを通じて、子ども、保護者の人権擁護を視点とした保育、保護者支援に取り組んでいます。	

評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 近年、食に関する親の関心のなさから子どもも食材の形を知らないなど、知識、関心にムラがあります。そこで「さまざまな食育活動を通して、子どもや保護者に食への興味、関心を持ってもらう」ことを目標として実践しました。具体的には、検討を通じた毎月の食育活動の充実、カルタなど教材の製作、保護者向けの給食試食会、栄養士相談会などに取り組みました。実践の結果、食育活動の一環として、子どもたちが近隣の青果店に食材を受け取りにいきました。受け取りを終え、「ミッション」を達成した子どもは誇らしく、活動への意欲も湧き、食事への関心も高まり、苦手な食材を食べる姿も見られました。さらに試食会では、普段子どもたちが食べる食事の味、大きさを知ることができ、栄養士の専門的助言を通じて、保護者の関心も高まり、家庭での食事づくりに生かされています。一方、計画では野菜づくりも目標としましたが、施設の構造上、困難と判断して見合わせました。振り返りでは、行事企画書の項目に沿って職員全員で検証、評価を行いました。これらの結果を踏まえ、今年度は子どもたちが楽しんで取り組めるよう工夫をするとともに、食材の受け取りは地域交流の一環として取り組んでいます。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 当園の取り組みは、食育活動を通じて、子ども、保護者に食事に興味、関心をもってもらうことを目指したものです。目標は事業計画に位置付け、職員全体で取り組みました。目標設定は、保護者の関心の薄さが、子どもに影響するという一般論を踏まえ、園における子どもの姿の観察結果から、食育を課題とすることにしました。取り組みでは、毎月、「食育の日」を設け、子どもたちが青果店など店舗を訪問して、自ら食材を受け取り、調理室に届けています。この活動を「ミッション」と命名し、子どものやる気、食事に対する関心の高まりを期待しながら、地域交流としても位置づけています。このほか保護者向けの試食会、栄養士相談会なども開催しました。いつも食べている子どもたちの食事を通じて、家庭での食事づくり、食に関する園との連携の啓発に努めました。取り組みの結果は、行事企画書に沿って目的を達成できたか、職員それぞれの立場から振り返りを行い、全体のまとめを行っています。この結果を踏まえ、子どもたちも食育の日を楽しみにしていることから、今年度も継続して取り組んでいます。当園では、PDCAサイクルを通じて、食育の活動の質の向上に取り組んでいます。	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5／5
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇〇)			
評価		標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている		○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		○ 非該当
◎ あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		○ 非該当
◎ あり ○ なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている		○ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
園のホームページやパンフレットを通じて利用希望者に広く情報を提供しています 園のホームページには、園の3つの取り組みとして、「地域を通しての経験」「食育活動」「保護者支援」を掲げ、実際の日々の取り組みを紹介しています。「園長先生の紹介」として、施設長が保育士になろうとしたきっかけや、施設長から見た園の特徴も掲載されています。また、「園での一日の流れ」として、子どもたちの動きと共に園の様子が分かるコメントも付け、園生活が具体的にイメージできる工夫をしています。園のパンフレットには園が保育において大切にしている事などを、イラストや写真を交え視覚的にも分かりやすく紹介しています。 行政と連携を取り、園の情報を発信しています 園の情報は随時、区に提供しています。区のホームページの「認証保育所一覧」には、区内の認証保育所の一覧表が掲載されており、その中に当園の情報も掲載されています。毎月の入所可能予定数を載せて、利用希望者が情報を得やすいようにしています。また、パンフレットを区の保育支援課入り口に置き、利用希望者に手に取ってもらいやすいように工夫しています。 園見学を通じて園の特徴を丁寧に伝え、入園への不安軽減につなげています 園見学は、ホームページや電話で受け付けています。問い合わせがあると、見学者の要望を聞き、日時を決めて対応しています。見学時にはパンフレットを渡して、施設長が園の設備や、取り組みの内容、大切にしている事、1、2歳児はユニット単位での異年齢保育の特徴などを丁寧に分かりやすく伝えて、理解を得られるようにしています。見学者からの質問には丁寧に対応し、園の地域交流にも参加できること、安心して利用してほしいことを伝えたとともに、園を身近に感じてもらえるように努めています。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6 / 6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評			
入園に際して、園生活がスムーズに進むように個人面談を実施しています 入園が決定すると、入園に関する説明会と個人面談を行っています。個人面談は施設長が対応し、それぞれの家庭の意向を把握するとともに、入園のしおりをもとに園での取り組みや、約束事などを保護者に分かりやすく説明しています。面談時に把握した事柄や子どもの様子から得た情報は、パーソナルカードに記載して児童票にとじています。これらの情報は担当保育士に伝え、フロアごとの会議等で職員間で情報共有し、保育に生かせるように努めています。なお、保護者からは個人情報の取り扱いに関する同意書を得ています。 新たな環境で、子どもができるだけ安心して過ごせるように環境を整えています 入園時に保護者に渡す利用申込書に、子どもが園に慣れるために必要とされる短時間の保育例が記載されています。園ではその期間を1週間程度必要と考えていますが、子どもの個性や月齢、集団への参加の経験や保護者の就労状況に配慮し、また保護者の理解と協力を得て個別に実施しています。子どもが新しい環境で感じるストレスをできるだけ軽減するために、子どもが安心するタオルなどの持ち込みもできるようにしています。日々の園での様子は保護者に丁寧に伝え、家庭との連続性を大切にしたい保育が行えるように努めています。 子どもが卒園してからも、子どもの育ちを見守り、保護者支援を継続しています 当園は0～2歳児を預かる園ですので、3歳児からは幼稚園や他の保育所など子どもたちの進路はさまざまです。園では地域の幼稚園、認可保育所、認定こども園などと交流があり、保護者から進路の相談があった際には、それぞれの事情に沿って対応し、保護者の不安軽減につなげています。また、卒園しても、引き続き気軽にいつでも相談ができる事を伝えています。4月には卒園した子どもが顔を見せに園を訪れたり、職員が新しい園の運動会を見に行ったりして継続した関わりがあり、子どもの育ちを見守っています。			

	サブカテゴリー3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 13／13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している			
評点(〇〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○ 非該当	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○ 非該当	
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○ 非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○ 非該当	
サブカテゴリー3の講評			
入園前、在園中の情報は個々のファイルにまとめています 入園時に保護者に提出してもらうパーソナルカード、利用児健診票などから、入園前の健康状態や食べ物の好み、睡眠、排泄、好きな遊びや運動、性格などを確認しています。また、個人面談時には、家庭の意向や保護者の要望なども聞き取り、児童票に記録して職員間で共有し保育に生かしています。入園後の日々の心身の発達は、個人別発達の記録や個人別指導計画、保育日誌などに記載し、これらの情報は個々のファイルにとじて職員間で共有しています。 指導計画を作成する際には、子どもの育ちが反映できるようにしています 全体的な計画を基に、各担当が各年齢の年間指導計画、月案、週日案を立てていきます。併せて各ユニットの月案も立てています。年間指導計画は、期ごとに評価・反省し、月案は前月の反省のもとに次月に生かせるように計画を立てています。各指導計画は、子ども自身が園生活を有意義に過ごせるように、興味や季節、個々の発育チェックシートも参考に作成しています。また、配慮を必要とする子どもがいる場合には、さらに個別の指導計画を作成して、子どもの育ちや保護者の意向も考慮して反映させています。 子どもや保護者の情報は、ノートやボードを使い共有しています 園では、0歳児は1クラス、1、2歳児は異年齢のユニット制で活動しています。日々の直近の情報や変更に関しては伝達ボードを活用し、夕方以降から次の日にかけては引き継ぎボードを活用して職員間で情報を共有できるようにしています。また、月1回の月案会議では担当職員が引き継ぎをしたい事を発表し記録しています。会議に出られなかった職員には会議録を全員が確認することで周知しています。また、緊急時の連絡は全職員のスマートフォンに入れたコミュニケーションアプリを活用して、速やかに全職員に情報共有できる仕組みになっています。			

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5 / 5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		☐ 非該当
サブカテゴリー5の講評			
個人情報の取り扱いについて入園時に説明し、同意書を得ています 個人情報の取り扱いについて、入園時に保護者に説明しています。子どもの写真の撮影などについて説明し、保護者から同意書を得ています。そして、日々の配慮として、職員は子どもや保護者のいる場所で、特定の子どもや保護者のプライバシーに関することを話題にしないことや、園内での出来事を園外で話さない守秘義務についても、周知徹底しています。保護者に対しては、各保育室に設置されたライブカメラの映像に対して、必要以上に口外しないことなどをお願いしています。 子どもの権利を守り、人権を尊重した保育を行っています 外散歩時の排泄の失敗については、手早く目立たないように公園のトイレ内で行っています。トイレトレーニングに配慮して、2階のトイレは個室になっています。おむつ替えの時なども、「きれいにしようね」などと声をかけて行っています。水遊びの時にも、裸で行わず、園内の写真にも子どもの裸が写らないように配慮しており、職員も理解し徹底して取り組んでいます。園では一人ひとりの育ちや家庭環境に配慮し、一人の人として子どもの人権に配慮した対応を園全体で心がけています。 園内研修では子どもの人権・虐待をテーマに研修を行うなど職員の意識を高めています 子どもへの虐待は、家庭だけで起こるものではなく、職員による子どもへの言葉がけや対応にも関係があることを、職員は理解しています。保育の質向上を目的とした園内研修では、「子どもの人権・虐待」をテーマにして、他園での虐待事例を自園に置き換えて検証しています。さらに、日々の保育の中での声かけや対応について、年2回のセルフチェックを通じて確認しています。また、子どもの受け入れの際には、視診、触診で体の様子を見て、子どもの言葉や機嫌などから虐待の早期発見に努めています。			

サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評価 標準項目			
☒ あり ☐ なし		1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評価 標準項目			
☒ あり ☐ なし		1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	☐ 非該当
サブカテゴリー6の講評			
法人で統一されたマニュアルを整備して、保育の標準化に努めています 各園からの職員の気づきや意見を集約し、法人として検討したものを危機管理、不審者対応、衛生管理などの各種マニュアルに反映しています。これらのマニュアルは、系列園が共通で使用しています。また、午睡、安全管理などのチェック表があり、マニュアルに沿った対応ができるように配慮しています。園は、2歳児までの乳児を預かる園なので、園外保育、午睡、保育については乳児の成長に配慮した園独自のものを作成しています。職員は必要とするマニュアルをコピーして、いつでも振り返りができるようにするなど保育の標準化に努めています。 子ども、保護者、職員の意見を園運営の向上につなげています マニュアルの見直しは年1回行っていますが、法人や行政からの情報があれば、そのつど見直しをして差し替えています。園では、乳児保育に特化したマニュアルとなるように、職員の意見、気づきから法人のマニュアルを基に園独自のものを展開しています。早番作業を業務時間から開始しても間に合うように、明け番作業マニュアルを作成するなど工夫しています。また、お迎え時の受け入れの場が混雑することで、利用料金の負担が起きないように、状況によって受け入れ口を増やすなど、保護者からの日々の要望を取り入れサービスの向上につなげています。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4																				
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	35／35																			
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇)・非該当1 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>● あり ○ なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>● あり ○ なし</td> <td>2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>● あり ○ なし</td> <td>3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>● あり ○ なし</td> <td>4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>● あり ○ なし</td> <td>5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>○ あり ○ なし</td> <td>6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている</td> <td>● 非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		● あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○ 非該当	● あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○ 非該当	● あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当	● あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○ 非該当	● あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当	○ あり ○ なし	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている	● 非該当
評価	標準項目																					
● あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○ 非該当																				
● あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○ 非該当																				
● あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当																				
● あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○ 非該当																				
● あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当																				
○ あり ○ なし	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている	● 非該当																				
評価項目1の講評																						
園全体で子ども一人ひとりの姿の把握に努めています 0歳児クラスは担当制をとり、1、2歳児クラスは異年齢のユニットで活動しています。職員は、子ども一人ひとりの心身の育ちに配慮し、また子どもの興味関心を見逃さないようにして関わっています。そして、ユニットごとの担当が子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで指導計画を作成しています。乳児のみの園であるため、特に家庭との連携を大切にしており、保護者の意見や子どもの家での様子などを連絡帳アプリを通じて共有し、個別面談時の保護者の声も参考にして、一人ひとりの姿の把握に努めています。 子どもの気持ちを受け止め共感することを大切にして子どもの自己肯定感を育んでいます 子どもの喃語には笑顔で応答し、自分の気持ちを十分に言葉にして伝えられない時には同じように言葉を返したり、表情を言葉にして伝えたりするなど、自分の存在を認められているという安心感につなげています。おむつ替えの時なども、優しい声で「〇〇しましょうね」と声をかけてから行動に移したり、職員が穏やかな表情を見せたり、ゆったりとした動作を意識したりして、子どもが常に安心して楽しく過ごせる環境を園全体で作っています。職員一人ひとりが子どもの気持ちに寄り添い共感していくことを大切にして、日々の保育に生かしています。 異年齢によるユニット保育を通して、子ども同士がお互いを思いやる心が育まれています 日々の活動と成長がつながるような保育を実践しています。園では日常的に1、2歳児を5つのユニットに分けて異年齢保育を行っています。そのような環境であるため、2歳児の行動を1歳児が関心を持って見ており、トイレトレーニングなどでは、1歳児が2歳児の真似をして、無理なくトレーニングにつながることもあります。また、2歳児は自身が園の中で最年長であるという自覚を持って年下の子どものお世話をしており、次第に年齢にかかわらず困っている友だちを手伝おうという姿が見られるようになるなど、心の成長にもつながっています。																						

2

評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当

評価項目2の講評

登園時の受け入れの様子は、伝達ボードでユニットごとに周知しています

朝の受け入れ時は、保育士が子ども一人ひとりの視診・触診を行い、保護者には食欲、機嫌、健康面の様子を聞き、けがや発熱など特に気になる点は状況を確認したうえで受け入れをしています。これらの情報は伝達ボードに記入していき、子ども一人ひとりの状況について、きめ細かく職員間で情報共有しています。降園時には、子どもの園での様子を会話や連絡帳アプリなどで伝えています。特にその日の様子で気になることがあった時には、保護者からも話を聞くようにして、園と家庭とで連携して子どもの様子を見ていくようにしています。

基本的な生活習慣が身につくように、家庭と連携して支援しています

食事、排せつ、衣服の着脱など基本的な生活習慣が身につくように、一人ひとりの成長に合わせて個別に対応しています。無理に押し付ける事はせずに、子どもに「またやってみよう」という意欲が育まれるように支援をしています。朝の挨拶や、食事の時の挨拶を丁寧に言って習慣化し、トイレトレーニングは自分で尿意を伝えた時には職員も一緒にトイレに行き、褒めて、その時の子どもの気持ちに共感しています。また、基本的な生活習慣の習得においては、保護者の意向と園での様子などを共有して、家庭との連携のもとに進めるようにしています。

子どもの育ちに合わせて休息や午睡を取り入れるように配慮しています

0歳児は家庭での生活リズムとの連続性が重要であるとの考えから、子どもの体調や、家庭の生活環境との連携にも配慮して、園での睡眠の長さや時間帯には柔軟に対応しています。食事前に眠そうにしている時には、食事の時間を調整するなど配慮しています。また、保護者の意向にもできるだけ沿うようにしています。家庭では子どもが眠らないなど保護者から相談があった時には、生活状況を聞くとともに園での様子も共有し、睡眠に対するアドバイスを行って子どもの生活リズムを整えていくなど、きめ細やかに支援しています。

3

評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当

評価項目3の講評

言葉がけや言葉あそびが子どもの情緒の発達につながるように工夫しています

言葉で表現するのが難しい乳児期は、視線や喃語で要求を伝えてきます。その際に職員は、子どもと視線を合わせて、「〇〇なのかな」「嬉しいね」など子どもの表情を言葉にして、気持ちやイメージを共有するように努めています。そして、いっしょに歌をうたって言葉のリズムやメロディを楽しんだり、絵本の読み聞かせでは、擬音や繰り返される音を楽しんでいます。職員は、子どもの話には興味、共感を持って応答し、肯定的に子どもを受け止めています。また、決して否定的な言葉を使わないように、自身の言葉づかいの振り返りをしています。

子ども一人ひとりが十分に遊びこめるように、環境づくりの工夫をしています

園では、子どもたちの「自らやってみたい」という気持ちを大切にしています。1、2歳児のユニット保育では、各担当者が得意分野を発揮してそれぞれに違う環境設定を行っており、子どもたちが他のユニットに興味を持った場合には、それに合わせて遊びの内容、形態を柔軟に変化させ、子どもの興味に沿えるように工夫しています。今年度は期間を設けて「横割り保育」を導入し、同じ年齢の子どもだけの活動を行いました。子どもたちは十分に遊びこむことができ満足し、さらに「自らやってみたい」という主体性、自主性の芽生えにつながりました。

地域の人とのふれ合いや戸外活動が子どもの心身の発達につながっています

近隣には大小さまざまな公園があり、目的を持って散歩に出かけています。虫探しをしたり、木の実を拾ったり、自然物を製作に生かしたりして季節の移り変わりを知る機会になっています。冬には「雪散歩」に出かけることもあります。また、坂道の多い散歩道を歩く機会も取り入れ、体幹、足腰が鍛えられています。戸外活動では、子どもたちは目に留まった花を指さし、色や形に興味を持ったり、交通ルールを学んだりしてさまざまな体験をしています。また、近隣の人と挨拶を交わし、園以外の人ともコミュニケーションをとる機会になっています。

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	☐ 非該当
	評価項目4の講評		
	行事には季節感を取り入れたり地域の協力を得たりして、楽しめる工夫をしています 毎月の誕生会や季節の伝承行事、すいか割りやハロウィンなどのイベントを行っています。園では行事は日ごろの保育を生かして企画しており、子ども一人ひとりが興味や関心を持って自ら楽しめるように、さまざまな工夫をしています。例えば、節分の時期には節分に関わる製作活動や、七夕、お正月、ひな祭りに向けた季節感の感じられる製作活動を取り入れることで興味や関心が生まれています。また、ハロウィンパーティや「こどもまつり」では地域の協力を得るなど、子どもたちの「楽しい」「もっとやってみたい」という意欲につながっています。 保護者の予定が立てやすいように、年間行事予定を配付しています 行事ごとに保護者向けのアンケートを実施し、寄せられた意見や要望を取り入れながら行事内容を見直しています。そして保護者が行事に参加しやすいように、年度の初めに年間行事予定を保護者に配付しています。保護者が参加できる行事の際には、集団の中での子どもの育ちを知ってもらえるような内容にしています。今年度は、戸外活動での子どもと職員とのやり取り、友達同士の関わりなどを見てもらえるように、子どもたちの散歩の様子を見てもらいました。このような取り組みを通して、子どもの育ちを園と共有できるようにしています。		
5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	☐ 非該当
		評価項目5の講評	
	保育時間が長くなる中でも安心してゆったりと過ごせるように配慮しています 若い子どもが親と離れて過ごす時間が長くなることによるストレスがかからないように工夫しています。園内は、横になってリラックスしたり、自分の好きな遊びに集中できるような環境にしています。延長保育の時間帯は、子どもの人数が少なくなることで部屋を広く使えるようになるため、ボール遊びや、普段は遊べないような特別な玩具を用意して、日中の活動とのメリハリをつけています。また、職員と1対1でスキンシップを図るなど愛情も十分に満たされるように配慮しています。このような配慮から子どもたちは安心してゆったりと過ごしています。 安心して保護者のお迎えを待てるように職員は子どもの気持ちに寄り添っています 長時間保育の子どもに気持ちに寄り添い、職員は家庭的な雰囲気大切に子どもと接しています。子どもの人数が少なくなると一つの部屋に移動をして合同で過ごしていますが、その時々の子どもの人数に応じて安全に遊べることを第一に考え、遊びの内容などを工夫しています。子どもがふとした時に寂しい気持ちになるようなことがあれば、その気持ちに寄り添いつつ、園の窓から商店街の様子を眺めるなどして気分転換ができるよう配慮しています。また、園では玩具の種類や遊びの種類を増やし、子どもが飽きないで楽しめる設定を検討しています。		

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している			評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目			
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動、保護者や地域の多様な関係者との連携等)を行っている			☐ 非該当
評価項目6の講評					
日替わりの献立を作成し、食事の時間が待ち遠しくなるような給食を提供しています 家庭的な雰囲気の中で、生活の基本となる食事を楽しむことを大切にしています。自園給食であるため、訪問調査時には、給食室から漂う食事のにおいから、子どもたちが給食を楽しみにしている様子が見られました。毎日違うメニューを提供し、ヘルシーメニュー、洋食、手掴み、煮物、炒め物などさまざまな食事を楽しむことができます。行事食は、その行事にちなんで視覚的にも楽しい盛り付けを工夫して提供しています。味付けは薄味で、出汁の味が生かされるように調理しています。また、保護者からの離乳食の相談は、栄養士が丁寧に対応しています。 子どもの体調、生活環境に配慮した食事の提供をしています 食物アレルギーのある子どもは入園児の保護者との面談で把握し、医師による生活管理指導表を提出してもらっています。アレルギー食の献立作成時には、栄養士と担任が除去内容を確認して個別の献立表を作成し、毎月保護者に確認をしてもらっています。配膳時には、個別トレイに禁止されている食材と名前を記載し、担任、栄養士、施設長が食事の確認をしています。テーブルは別にして職員がついて誤食を防いでいます。なお、園では宗教食も必要に応じて対応しています。 食育計画を作成し、子どもたちが食に興味をもてるような取り組みを行っています 年間の食育計画があり各年齢のねらい・内容・配慮事項を明記して発達に応じた活動を行っています。トウモロコシの皮むきなど本物に触れる体験や、スプーンへの移行などを計画的に取り入れ、食に対する興味につなげています。「食育の日」の買い物は2歳児が担当し、施設長のアイデアによる「ミッションカード」に書かれた食材を近隣の青果店に買いに行きます。「お買い物ミッション」をやり遂げた子どもたちの表情は達成感に満ちあふれ、責任感の芽生えにもつながっています。食育の取り組みは、「食育だより」を通じて保護者に知らせています。					
7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している			評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目			
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている			☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している			☐ 非該当
評価項目7の講評					
子どもが心身の健康を維持できるように支援しています 室内には傾斜のついたソフトブロックや巧技台などがあり、子どもが雨天時でも全身を使って遊べるようにしています。戸外活動も積極的に取り入れ、散歩では年齢に応じて遠くまで足を延ばし、坂道の多い散歩道なども歩いて運動効果を高め、体幹が鍛えられるように工夫しています。安全面については、遊びの前に公園から出ないなどの「お約束」を行い、交通安全を子どもに分かりやすく伝えています。衛生面については、散歩から帰ってきた時や食事前の手洗いを日々の繰り返しの中で習慣化できるように工夫しています。 健康状態に配慮の必要な子どもは、かかりつけ医の指導に従い対応しています 子どもの健康状態は入園時の面談や書類、入園後は連絡帳や保護者からの聞き取りで把握しています。園での薬の預かりは、基本的にはしていませんが、慢性疾患で与薬が必要な場合には医師の与薬指示書のもとに預かり、アレルギーの塗布薬、熱性けいれんの抗けいれん剤などは施設長が対応しています。現在園では医療的なケアが必要な子どもは在園していませんが、対応方法については決まっています。職員はAED、救急法の講習を受けて緊急時に備えています。なお、園では年齢に応じた健診と毎月の身体測定を行い、結果を保護者に知らせています。 乳児を預かる園のため、乳幼児突然死症候群の防止のための研修を毎年行っています 入園の際に保護者には乳幼児突然死症候群(SIDS)について説明し、園ではうつ伏せ寝をしないことを徹底していることを伝えていきます。午睡中はチェック表を用いて体に触れて呼吸確認をしています。0～2歳児を預かる園として、保育の質向上を目指す取り組みとしてSIDS研修を毎年行い、SIDS対策強化月間にはブレスチェックマニュアルの読み合わせや紙面でのブレスチェックを行っています。また、季節性の疾患や予防などの保健情報は「ほけんだより」を通して保護者に知らせ、感染症の発症状況も掲示やアプリー斉配信で伝えていきます。					

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
	● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当
	● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○ 非該当
	評価項目8の講評 保護者を取り巻くさまざまな状況に配慮し、寄り添う支援に努めています 保護者の価値観や要望などは入園前の個人面談で把握し、それぞれの事情に合わせて保育時間を設定しています。また、入園後には個別面談や日々の連絡帳アプリのやりとり、送迎時の会話などで状況の変化を把握し、できるだけ保護者の意向に沿った対応を心がけています。急な事情で預かり時間の延長が必要になった時には、保護者の気持ちを汲んで快く対応するなど寄り添う姿勢を大切にしています。なお、保護者を取り巻くさまざまな状況は各種会議で共有し児童票などにも記録して、どの職員であっても同じ寄り添った対応ができるように努めています。 日々の子どもの様子を園と保護者とで共有するほか保護者同士の交流の場も設けています 園と保護者との連携について、「子どもの24時間の生活を視野に入れ、保護者の気持ちに寄り添いながら家庭との連携を密にして保育を行う」ことを入園のしおりにも明記し、日々の子どもの様子を園と保護者とで共有し、24時間の生活の連続性に配慮した保育の実践に努めています。また、職員は保護者の子育ての悩みにも寄り添い、4月の「はじめましての会」、3月の「おたのしみ会」では保護者同士が交流できる時間を設け、それぞれの家庭での子育ての話題を共有し、悩みを一人で抱え込まないように支援しています。 保育活動や子どもの育ちについて保護者との共通認識を得られるように取り組んでいます 園生活の中で子どもがどのように遊んでいるのか、職員との関わりはどうかなどを実際に保護者に見てもらえるように、ライブカメラによる配信を行い、保護者参加の行事を計画するなど開かれた保育を実践しています。保護者には保育参観として散歩の様子を見てもらうなどして子どもの成長を園と共有し、保育内容についても共通認識が得られるよう取り組んでいます。利用者調査結果からはライブカメラで様子が見られる、職員から詳しく話を聞ける、写真から保育内容が分かるなどの声が多く寄せられています。		
9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当
	評価項目9の講評 近隣の公園に出かけ、商店街の方と交流するなどさまざまな体験をしています 天気の良い日や、子どもの様子に応じて近隣の公園に散歩に出かけたり、図書館を利用したりするなど、日常的に地域資源を活用しています。散歩の際には交通ルールを分かりやすく子どもに伝え、近隣の方には職員から率先して挨拶をして子どもたちに手本を見せ、子どもたちも挨拶の習慣が身につくようになっていきます。園は商店街の中にあり、行事への地域の協力や理解もあります。ハロウィンのイベントでは商店街の協力により子どもたちがお菓子をもらい、また食育活動の一環として近隣の青果店で買い物をするなど、さまざまな体験をしています。 地域の福祉施設として子育て家庭の支援に取り組むほかボランティアを受け入れています 地域の子育て家庭への支援として一時保育を行っています。また、認証保育所であることから、保護者の就労の有無に関わらず保育を必要とする人が誰でも利用可能であること、13時間の長時間保育が可能であることなどを知らせて保護者支援に取り組んでいます。そのほかボランティアとして英会話の講師や、中学生の職場体験などを受け入れ、また近隣の図書館スタッフが来園しお話をを行うなど、子どもたちが地域の大人と交流する機会があります。今後は近隣の保育園との交流の機会をもち、さらに子どもたちの経験の幅を広げたいと考えています。		

調査対象

保育園を利用している22世帯を対象に調査を実施しました。在園児は22名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。

調査方法

アンケート調査は、Webアンケートシステムを使用し、無記名方式で行いました。案内は施設を通じて利用者へ配付し、集計は評価機関が行いました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、施設に報告しました。

利用者総数	22
利用者家族総数(世帯)	22
共通評価項目による調査対象者数	22
共通評価項目による調査の有効回答者数	17
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	77.3

利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が14人(82.4%)、「満足」が3人(17.6%)で「満足」以上の回答は合計17人(100%)でした。

自由意見には、「保育者の皆様が、子どもとしっかりと向き合ってくれていることが伝わってきて、安心して預けさせていただいています」「低月齢でも快く受け入れてくださり、柔軟に対応をしてくださって、大変助かっています」「いつもアットホームな空間をつくってくださり安心してお預けできております」「自然な雰囲気、家庭に近いような雰囲気で、子どもを預けられるのがとてもありがたく思っております」「保育内容もとても良いと思います」「親子で保育園生活を楽しんでいます」「柔軟な対応をくださいます」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。

項目別に見ますと、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか」「子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか」「職員の接遇・態度は適切か」他3項目で100.0%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が読み取れます。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	17	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「食育や、季節のイベントなどさまざまなイベントを企画してくださり、その中で心身ともに成長をさせていただいていると感じます」「散歩に工作、食育など、イベントもたくさんあり、毎日楽しく過ごしているようで、心身の発達にとってもいいと思っています」「家で見てあげられないことを、楽しく丁寧に経験させてもらっています」などの声がありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	15	2	0	0
「はい」が88.2%、「どちらともいえない」が11.8%でした。 自由意見には、「好きなものだけでなく、初めてのこと、苦手意識のあるものにも、積極的にチャレンジをさせてもらっています」「工作がかわいいです」「毎日、いろいろな催しを考えてくれて、子どもも大変楽しんでおります」「縦割り保育なので、他の学年のお友達との上下関係があります。順応できる子どもには良いと思います」などの声がありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	17	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「離乳食から普通食へ切り替え方を変更するタイミングも、状況を見て提案をしてくれており、助かりました」「園での食事生活のおかげで、カトラリーを使った食事がどんどん上手になったり、いろいろなものを食べられるようになったりしていると感じています」「夏場以外は玄関に見本や写真が置いてあり、おいしそうな健康的なおやつなので、安心しています」「家で作らない、使わない食材もどんどん使って、栄養満点のバラエティに富んだ食事を提供してもらっています」などの声がありました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	15	2	0	0
「はい」が88.2%、「どちらともいえない」が11.8%でした。 自由意見には、「季節を感じられることを、遊びに取り入れてくれています」「毎月たくさんのイベントがあり、飽きずにとっても楽しそうです」「散歩に行っています」「入園オリエンテーションで『商店街の一部の要員であることを意識し、商店の方々とは負担のない限り挨拶を交わしてください』と案内がありました。2歳児クラスになると商店におつかいをしてくださいます」などの声がありました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	15	1	0	1
「はい」が88.2%、「どちらともいえない」が5.9%、「無回答・非該当」が5.9%でした。 自由意見には、「電話だけでなく、メールでも対応してもらえるのが非常にありがたいです」「18時以降は延長料金が急に高くなりますが、急な延長でも対応してくれます」「変更した事がないので、わかりません」などの声がありました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	12	4	1	0
「はい」が70.6%、「どちらともいえない」が23.5%、「いいえ」が5.9%でした。 自由意見には、「確認をしてくれています」「完璧ではないかもしれませんが、入口が二つなので、まだと思います」などの声がありました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	14	2	1	0
「はい」が82.4%、「どちらともいえない」が11.8%、「いいえ」が5.9%でした。 自由意見には、「頻度も多くなくて、ちょうどいいです」「保護者の強制参加はありません。行事に来ない保護者もありますが、ペナルティはないです」などの声がありました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	17	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「どの先生も親身になって、対応をしてくれています」「どの先生も子ども、保護者の様子をくみ取ろうとしてくださっているのが伝わってきて、安心できます」「担任だけでなく、色々な先生と話せるのがいいです」「関わる先生皆様のお人柄が明るく、穏やかで安心感があります」「保育園に対する印象が非常によく、信頼できます」「先生の質が高いので信頼して預けられます」などの声がありました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	13	3	1	0
「はい」が76.5%、「どちらともいえない」が17.6%、「いいえ」が5.9%でした。 自由意見には、「使ったおもちゃなどをその都度、片付けをしながら保育をしてくださっているのを、ウェブカメラで拝見させていただきました」「中に入れないので、よくわかりません」などの声がありました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	17	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「先生方はいつも笑顔で、感じが良いです」「気さくで優しいです」「園外でもにこやかに挨拶をしてくださいます」「みなさん親切、丁寧な先生で、子どもの事をとてもかわいがってくれます」などの声がありました。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	16	1	0	0
「はい」が94.1%、「どちらともいえない」が5.9%でした。 自由意見には、「体調の悪い子どもへの対応も丁寧に、相談をしながら決めてくださいます」「子どもに少し体調の変化があったのですが、わざわざ連絡アプリを書き直すと言ってくださいました。こまやかな対応に頭が下がります」「先に連絡帳アプリで確認ができるのが便利です」などの声がありました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	11	3	0	3
「はい」が64.7%、「どちらともいえない」が17.6%、「無回答・非該当」が17.6%でした。 自由意見には、「まだトラブルはないですが、信頼できると思います」「トラブルがないのでわかりません」などの声がありました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	17	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「個人の個性を温かく見守ってくれているのを感じます」「例えばボールプールで泣いたりしてしまったら、一度ボールプールから出して、外でボール遊びをしてから、慣れた状態で、もう一度遊んだりさせていただいています」「集団生活の中で、右にならえではなく、一人ひとりの個性を大切に育て、対応してくれていると感じられます」などの声がありました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	17	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	17	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「たくさんの写真をアプリで見ることができるので、写真からも保育内容がわかりますし、アプリにも保育内容の連絡があります。読んでいて情景が目につく内容で、いつも読むのを楽しみにしています」「連絡帳も子どもの様子がわかり、楽しいです」などの声がありました。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	12	3	0	2
「はい」が70.6%、「どちらともいえない」が17.6%、「無回答・非該当」が11.8%でした。 自由意見には、「相談をさせていただく機会があったのですが、不快感を示さずに受け止めてくださって、その後の対応も以前と変わりがなくくださって、とてもありがたく思っております」「要望を伝えたことがないので、わかりません」などの声がありました。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	9	5	1	2
「はい」が52.9%、「どちらともいえない」が29.4%、「いいえ」が5.9%、「無回答・非該当」が11.8%でした。 自由意見には、「事前説明がわかりやすく、書面での交付もしてくださっているので、理解しやすかったです」などの声がありました。その一方で、「知りませんでした。入園時の書類には、書いてあったのかもしれませんが」という意見もありました。				

株式会社 学研データサービス
(福祉サービス第三者評価機関)

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-11-8
TEL03-5436-8191 FAX03-5487-8810

●評価機関認証

東京都福祉サービス第三者評価機関認証
埼玉県福祉サービス第三者評価機関認証
千葉県福祉サービス第三者評価機関認証
神奈川県福祉サービス第三者評価機関認証
社会的養護関係施設第三者評価機関認証